

身は減っていません。これを準備している人々に「実際に消費されていますか？」と質問すると、「もう1年も同じボトルを置いている」と答えるところもあるくらいです。

単に「手を洗う」という形が大事なのではなく、患者(あるいは不特定多数の人)が触ったかもしれない場所に触れた後、その手を口や目などの粘膜に持つていくことで感染する可能性があることや、それを防止するために手洗いが必要なのだということがうまく伝わっていないような感じがします。

「マスクはあまり有効ではないにせよ、罹患者のくしゃみや咳などの飛沫を直接受ける危険を予防するためにあったほうがいい」ということは浸透しています。でも、街で出会うマスク姿の人を観察していると、口だけマスクで隠して鼻を出している人や、マスクの横が完全に開いていて、顔にフィットしていない人がとても多いと思います。正しいマスクの仕方はあまり普及していないかもしれないと感じています。そのうえ、「電車の中や路上で咳やくしゃみをするときは、手やハンカチで口を覆う」という当たり前のことができない人がとにかくたくさんいることに驚かされます。

これはマナーレベルの問題かもしれないのですが、いっこうに減らない出来事なので、医療機関でもっとアピールしていただくことはできないものかとも思います。

## 一般家庭でもできそうな 感染対策

次に、参考にできそうな家庭での感染症対策について述べます。子どもの数が多くて、保育園、小学校、中学校にそれぞれ子どもが通っているような家庭では、子どもの誰かがインフルエンザに罹患すると、他の学校や園にも感染を広げてしまうのではないかと、いつも気にして、さまざまな感染防止策をとっている家庭があります。こういった人たちと意見交換をすると参考になることがたくさんあります。そのアイデアを参考にして相談活動に生かされているものもいくつかあります。

下記のリストは、インフルエンザだけでなく通常の風邪のときも行っていて、成果をあげたという例です。

- ・タオルを家族全員別々にしている
- ・罹患者が出たらトイレの手拭きは使い捨てのペーパータオルにする
- ・風邪をひいた子どもが寝る部屋をつくり、その部屋をとくに明るく、換気をよくして居心地をよくしている(「実際はただの隔離よ」とお母さんは話していました)

### 手洗いについて

一般の方には、単に「手を洗う」という形が大事なのではなく、患者(あるいは不特定多数の人)が触ったかもしれない場所に触れた後、その手を口や目などの粘膜に持つていくことで感染する可能性があることや、それを防止するために手洗いが必要なのだということがうまく伝わっていないような感じがします。